

主 題：恵みシリーズ7、永遠のいのちを得るー永遠のいのちを拒む罪
聖書箇所：ヨハネの福音書 5章31－47節

最近のことではありませんが、「悪徳商法や詐欺から自分を守るための対策」「気をつけなさい！」というサインを目にします。うまい話があるとき果たしてそれが本当なのか嘘なのか、それを見分けなさいというわけです。私たちは聖書を通して繰り返して、主イエス・キリストは信じるすべての者に永遠のいのちを与えることができると学んで来ました。では、どうしてそれが真実だと言えるのか？なぜ、イエス・キリストが本当に信じるすべての人の罪を赦すことができるのか？考えてみる必要があります。なぜなら、私たちの永遠が掛かっているからです。それが真実かどうかを見極めるためには、間違いなく証拠が必要です。そして、証拠は立証されなければなりません。パウロはこのように教えています。Ⅱコリント13：1「…すべての事実は、ふたりか三人の証人の口によって確認されるのです。」と。二人か三人の証人がなければそれが真実かどうかは分からないということです。確かに、知恵のあることばだと思います。

実は、今日私たちが学ぼうとしているヨハネ5：31から最後の47節までは、イエスご自身がご自分が真の救い主であることの証拠を挙げています。イエスご自身が「わたしが唯一の救い主である」と言っておられるその証拠を挙げておられます。イエスが真の神であることの証拠を挙げておられます。そのことを様々な証人たちを挙げて話しておられることが記されています。思い出してください。このことはエルサレムでのことです。38年間病気にかかっている人がいて、イエスはその人をいやされました。ところが、それが安息日だったことで多くの人たちはイエスを非難します。彼らはイエスと話しているうちに、イエスのメッセージを聞いてイエスが何を言わんとしているかを汲み取ったのです。この人物は自分を神だとしていて、それで人々はイエスを殺そうとするようになりました。そのことの続きです。そこで、彼らに対してイエスは、自分の言っていることがまさに事実である、自分は真の神であり、真の救い主であるということを、この後証明していけるのです。

イエスがどのようなことを話されたのか？その内容はどんなものだったのか？大切なところです。まず、31－32節を見ると「：31 もしわたしだけが自分のことを証言するのなら、わたしの証言は真実ではありません。：32 わたしについて証言する方がほかにあるのです。その方のわたしについて証言される証言が真実であることは、わたしが知っています。」とあります。先ほど見たように、イエスはそのようにわたしが言っているだけではない、証拠があるということを言われ、そして、その証拠を人々に話されたのです。どのような証言がここに記されているのでしょうか？見ていきましょう。

☆主イエスが神であることを証した証人たち

A. 証言の拒絶 33－39節

1. ヨハネのバプテスマ 33－35節

最初に出て来るのは「ヨハネのバプテスマ」です。そのことが33節から書かれています。「：33 あなたがたは、ヨハネのところに人をやりましたが、彼は真理について証言しました。：34 といっても、わたしは人の証言を受けるものではありません。わたしは、あなたがたが救われるために、そのことを言うのです。：35 彼は燃えて輝くともしびであり、あなたがたはしばらくの間、その光の中で楽しむことを願ったのです。」、イエスはここでご自分が真の神であり救い主であるということは、バプテスマのヨハネが証言していると言われるのです。33節に「あなたがたは、ヨハネのところに人をやりましたが、」とあります。何人かの人たちがヨハネのところに送られていくのです。なぜ、そのようなことがあったのか？彼らには疑問があったからです。「いったい、バプテスマのヨハネとはだれなのか？」という疑問です。ここにはこのようにしか書かれていませんが、もう少し詳しい内容がヨハネの福音書1章に記されています。

1：19からです。「ヨハネの証言は、こうである。ユダヤ人たちが祭司とレビ人をエルサレムからヨハネのもとに遣わして、「あなたはどなたですか」と尋ねさせた。」、今、私たちが見ているところです。人々がバプテスマのヨハネのところに遣わされた。20－24節「：20 彼は告白して否まず、「私はキリストではありません」と言明した。：21 また、彼らは聞いた。「では、いったい何ですか。あなたはエリヤですか。」彼は言った。「そうではありません。」「あなたはあの預言者ですか。」彼は答えた。「違います。：22 そこで、彼らは言った。「あなたはだれですか。私たちを遣わした人々に返事をしたいのですが、あなたは自分を何だと言われるのですか。：23 彼は言った。「私は、預言者イザヤが言ったように『主の道をまっすぐにせよ』と荒野で叫んでいる者の声です。：24 彼らは、パリサイ人の中から遣わされたのであった。」、5：33の詳しい説明がこのように書かれています。

イエスがだれなのか？ヨハネはこの後で明確に語ります。今、私たちが見た箇所ではヨハネはこうに言いました。「預言者イザヤが言ったように『主の道をまっすぐにせよ』と荒野で叫んでいる者の声です。」、それが私だと言うのです。これは旧約聖書イザヤ書に書かれています。イザヤ40：3「荒野に呼ばれる者の声がする。『主の道を整えよ。荒地で、私たちの神のために、大路を平らにせよ。』」、つまり、イザヤは預言したのです。救世主が来る前にこのような人物が現われると。救世主が来る前に、その道をまっすぐにする、それが私だと言います。そして、私の後に来られる方、その方が救世主だと告げたのです。ですから、1章を続けて見てください。ヨハネはこうに証言します。1：29「その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊。』」、ヨハネははっきりと「このイエスこそが私たちを罪から解放してくださる方、罪の赦しをもたらす救世主である。」と、そのことを明らかにしています。

また、34節を見てください。イエスのバプテスマのことを話した後、「私はそれを見たのです。それで、この方が神の子であると証言しているのです。」と言っています。このようにヨハネは明確に私の後から来られるイエス・キリストこそが真の救い主であり、神であるということをおもひに公にしたのです。もう一度5章を見てください。33節の終わりに「…彼は真理について証言しました。」とあります。ヨハネが語ったことは真理であり、真理である主イエス・キリストのことを人々の前に告げたと、そのことを今見たのです。35節を見ると「彼は燃えて輝くともしびであり、あなたがたはしばらくの間、その光の中で楽しむことを願ったのです。」とあります。みことばが教えていることは、ヨハネは光そのものではなかった、ともしびであった、ちょうど、ともし火の周りに昆虫が集まって来るように、彼の役目は人々を主に引き寄せることだったということです。そして、「その光の中で楽しむことを願った」と、確かに、ユダヤ人たちはそうでした。イエス・キリストの話聞いたとき、人々はやっと我々をローマから解放してくれる救世主が来たと言ったのです。一時的なことです。ご存じのように、その後、彼らはイエスがローマからの解放者ではないと気づいたときに、彼らはイエスを殺そうとするのです。しかし、確かに、彼らは束の間救世主の到来を喜んだのです。みことばが言う通りです。

ですから、まず、バプテスマのヨハネが主イエス・キリストがだれであることを証言しています。

2. 主イエスの奇蹟 36節

36節「しかし、わたしにはヨハネの証言よりもすぐれた証言があります。父がわたしに成し遂げさせようとしてお与えになったわざ、すなわちわたしが行っているわざそのものが、わたしについて、父がわたしを遣わしたことを証言しているのです。」、つまり、イエスはここで「ヨハネが言ったことよりももっとわたしがだれかを明確にする証拠がある。それは、わたしが行なった奇蹟のわざである。」と言うのです。イエスが為さった奇蹟のわざは何を表わしていたのか？イエスが神であるということです。多くの人々はイエスのわざを見てそのことを感じているのです。いくつかのことを見ましょう。

・ニコデモ：ヨハネ3：2「この人が、夜、イエスのもとに来て言った。『先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられるのでなければ、あなたがなさるこのようなしるしは、だれも行うことができません。』」、ニコデモはイエスが為しておられるわざを見て、聞いて、「これは神から出たに違いないと確信した」と、彼自身が伝えています。

・盲人：ヨハネ9章に一人の盲人のことが書かれています。9：31－33「：31 神は、罪人の言うことはお聞きになりません。しかし、だれでも神を敬い、そのみこころを行うなら、神はその人の言うことを聞いてくださると、私たちは知っています。：32 盲目に生まれついた者の目をあけた者があるなどとは、昔から聞いたこともありません。：33 もしあの方が神から出たおられるのでなかったら、何もできないはずですよ。」、この盲人はまだ真理がよく分かっていたいなかったけれど、このような奇蹟を体験したので「私をいやしてくださった方が神から出ているのは間違いない」とユダヤ人たちに告げるのです。

・パリサイ人：また、ユダヤ人たちの中にいたパリサイ人たちの間でも、そのことを認めた人たちがいました。ヨハネ9：16に「すると、パリサイ人の中のある人々が、『その人は神から出たのではない。安息日を守らないからだ』と言った。しかし、ほかの者は言った。『罪人である者に、どうしてこのようなしるしを行うことができよう。』そして、彼らの間に、分裂が起こった。」、面白いことが起こったのです。みなが見な、イエスを迫害したわけではないのです。イエスの奇蹟のみわざを見たときに、ある人たちは「これは神から出ているのではないか？神がこのようなわざを為しているのではないか？」と、そのように思った人たちが確かにいたということです。

・イエス・キリストご自身：イエスご自身もこのように言っておられます。ヨハネ14：11「わたしが父におり、父がわたしにおられるとわたしが言うのを信じなさい。さもなければ、わざによって信じなさい。」と。「わたしの言っていることを信じなさい。でも、もし、それが難しいと思うなら、わたしが行っている奇蹟のわざを見てご覧なさい。そのときにわたしがだれであるかが分かるから。」とイエスは言われたのです。

しかし、悲しいことに、人々はそのように奇蹟のみわざを見ていても、それはサタンの力によって為しているわざだと言ってイエスを信じることはなかったのです。しかし、イエスは確かに奇蹟のみわざをもって、ご自分が神であることを明らかに示されました。

3. 父なる神 37、38節

37、38節には第3番目の証人が出て来ます。父なる神です。「:37 また、わたしを遣わした父ご自身がわたしについて証言しておられます。」、父なる神ご自身が証言しておられると、いったい、いつそのことが起こったのでしょうか？少なくとも、私たちは2回の大きな出来事を聖書の中に見ることができます。

1) イエス・キリストのバプテスマのとき

その時に、天から声がします。マルコ1:11（マタイ3:17、ルカ3:22）「そして天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」と。確かに、父なる神はイエス・キリストがバプテスマを受けられたときに「わたしはあなたを喜ぶ。」と言われました。

2) イエスの山上の変貌

イエスが弟子たちとともに高い山に登ったときに何が起こったのか？そこでも天からの声がします。マタイ17:5-6（マルコ9:7、ルカ9:35）「彼がまだ話している間に、見よ、光り輝く雲がその人々を包み、そして、雲の中から、「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞きなさい」という声がした。:6 弟子たちは、この声を聞くと、ひれ伏して非常にこわがった。」と。

* 父なる神は、このイエスが特別な存在であることを証した

確かに、父なる神は主イエス・キリストがだれであるかということを明確にされました。覚えていただきたいことは、父なる神は主イエス・キリストを喜んでおられたということです。イエスが為さることだけでなく、イエスが口にすることばもすべてにおいて、父なる神は喜んでおられたのです。イエスはご自分が神であると言われていました。だから、ユダヤ人は彼を殺そうとしたのです。でも、父なる神はそれを喜んでおられた、なぜでしょう？イエスが言う内容が真実だからです。イエスの言われていることが真理だからです。Iヨハネ5:9-10に「:9 もし、私たちが人間のあかしを受け入れるなら、神のあかしはそれにまさるものです。御子についてあかしされたことが神のあかしだからです。:10 神の御子信じる者は、このあかしを自分の心の中に持っています。神を信じない者は、神を偽り者とするのです。神が御子についてあかしされたことを信じないからです。」とある通りです。

もう一度ヨハネ5章を見てください。37節の続きに「あなたがたは、まだ一度もその御声を聞いたこともなく、御姿を見たこともありません。」と。だれの声でありだれの御姿なのか？これは「父なる神」のことです。父なる神の御声を聞いたこともなく、父なる神の御姿を見たこともないと。そのことを覚えておいて、イエスのことばを見てください。

1) 御声 : ヨハネ14:24「わたしを愛さない人は、わたしのことばを守りません。あなたがたが聞いていることばは、わたしのものではなく、わたしを遣わした父のことばなのです。」、あなたがたはわたしのことばを聞いているけれど、実は、わたしのことばは父なる神のことばなのだとされたのです。

2) 御姿 : そして、先の山上の変貌のところを思い出してください。マルコ9:2に「…そして彼らの目の前で御姿が変わった。」とあります。そこにいた弟子たちは驚き恐怖に包まれました。いっしょにいたイエスの御姿が変わって光輝いたからです。弟子たちは、神の声を聞き神ご自身の御姿をイエスを通して見たのです。いつもともにいたイエスが、実は、真の神であると。確かに、私たち人間は父なる神の声を聞くこともその御姿を見ることもできません。しかし、イエス・キリストのことばが神のことばであり、イエス・キリストの御姿がまさに私たちに神を明らかにしているのです。ヨハネ5:37「また、わたしを遣わした父ご自身がわたしについて証言しておられます。あなたがたは、まだ一度もその御声を聞いたこともなく、御姿を見たこともありません。」、コロサイ1:15「御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。」。

* 主イエスは、本質において神であることを明らかにされた

でも、このことは決して父なる神がイエスと同じような肉体をもっているということではありません。主イエス・キリストを見たときに、そこに存在する完全な愛も、完全な聖さも、そして、すべてのことをご存じであるその全知も、どんなこともできる全能も、イエスを見るとき、私たちは目で見るができない神がどのような方であるかを知ることができるのです。ピリポが「父を見せてください」と言っている箇所があります。ヨハネ14:8、9をご覧ください。「:8 ピリポはイエスに言った。「主よ。私たちに父を見せてください。そうすれば満足します。」:9 イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。」。

* 彼らは神の声を聞き、神の御姿を見た。それがイエスであると。

* 信じない。ヨハネ5:38「また、そのみことばをあなたがたのうちにとどめてもいません。父が遣わした者

をあなたがたが信じないからです。父が遣わした者をあなたがたが信じないからです。」、Ⅱコリント4：4「その場合、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。」、同じⅡコリント3：15「かえって、今日まで、モーセの書が朗読されるときはいつでも、彼らの心にはおおいが掛かっているのです。」。ゆえに、神である主イエスの福音のすばらしさが分らないのです。「彼らの心にはおおいが掛かっている」からです。

ですから、イエスが彼らとともにいたときに、彼らは神の声を聞き神を見たのです。それでいてもなお、彼らは真の救い主を受け入れようとしなかった。しかし、父なる神は確かにこうしてイエス・キリストが神であることを明らかにされました。

4. 聖書 39節

もう一つの証は39節に書かれています。「聖書」です。「あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。」と。非常に悲しいことは、ユダヤ人たちは一生懸命聖書を学んでいましたが（このときの聖書は旧約聖書です）、彼らはその真理を悟ることがなかったのです。皆さんもご存じのように、旧約聖書は明らかに、主イエスのことを伝えていました。ですから、新約を見ると、何度もそのことが教えられています。

ルカ24：27、44 「：27 それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた。」、「：44 さて、そこでイエスは言われた。「わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことばはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就するということでした。」、旧約聖書がご自身のことについて語っているので、そこを使ってご自分がだれであるかを明らかにされたと言うのです。

使徒の働き3：18、24 ペテロがエルサレムにいたときに、ソロモンの回廊での出来事が「使徒の働き」3章に記されていますが、そのときに彼は人々にこのように言っています。「：18 しかし、神は、すべての預言者たちの口を通して、キリストの受難をあらかじめ語っておられたことを、このように実現されました。」、「：24 また、サムエルをはじめとして、彼に続いて語ったすべての預言者たちも、今の時について宣べました。」、イエスの十字架は偶然に起こったのではない、あれは旧約の預言者たちが預言していたことの成就であると言うのです。「今のこの時のことを」語っていたのだと。

使徒10：43 また、ペテロがコルネリオの家を訪問したときのことが書かれています。コルネリオは異邦人で最初に信仰に至った人物です。そのときにペテロは「イエスについては、預言者たちもみな、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しを受けられる、とあかししています。」と言っています。ペテロは自分のメッセージを語ったものではありません。ユダヤ人たちがよく知っている旧約聖書を使って（コルネリオは知らなかったでしょう）、そこに預言されている救世主が来られた、それがイエスであると語ったのです。

使徒13：29 パウロもそうでした。アンテオケにおいて「こうして、イエスについて書いてあることを全部成し終えて後、イエスを十字架から取り降ろして墓の中に納めました。」と、同じように、イエスが十字架で死ぬこともすべては神の預言であったと語るのです。

使徒26：22 アグリッパ王の前でパウロは「こうして、私はこの日に至るまで神の助けを受け、堅く立って、小さい者にも大きい者にもあかしをしているのです。そして、預言者たちやモーセが、後に起こるはずだと語ったこと以外は何も話しませんでした。」、パウロもそう言うのです。私が語っていることは旧約聖書で語られていたことだと。ですから、彼らはこのイエス・キリストこそ預言の成就である、約束されていた救世主であると、そのメッセージを伝えたのです。

使徒28：23 「そこで、彼らは日を定めて、さらに大ぜいでパウロの宿にやって来た。彼は朝から晩まで語り続けた。神の国のことをあかしし、また、モーセの律法と預言者たちの書によって、イエスのことについて彼らを説得しようとした。」

Ⅰペテロ1：10 「この救いについては、あなたがたに対する恵みについて預言した預言者たちも、熱心に尋ね、細かく調べました。」

今日のテキストを見ると、39b節「その聖書が、わたしについて証言しているのです。」、旧約聖書は私について教えていると…。40節「それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。」と、一生懸命学んでいるはずなのに、そして、この聖書がわたしについて教えているにも関わらず、あなたたちはわたしを拒み続けていると言われるのです。

主はこうして証言をもって、ご自分が約束の救世主であることを明らかにされました。でも、悲しいことは、何度聞いても彼らは信じなかったということです。心が余りにも頑なであるから、信じたくない者は信じないのです。しかし、確かに、みことばはイエスがだれであるかを明らかにしています。そして、彼らが主の前に立つときに、彼らはだれ一人として、自分のさばきについて弁解することはできないのです。なぜなら、自然界もそうだし、神がお与えになったみことばもそうだし、神の語られたメ

ッセージはイエス・キリストのことを語っていたからです。イエス・キリストが神であり救い主であると語っていた。そして、彼らはそれを聞いていながらそれを拒んだのです。

イエスはこうしてご自分に関する証言を挙げられました。わたしだけでない、このような人たちが「わたしがだれであるか」を証言していると。

B. 救い主の拒絶 4 1－4 4 節

その上で、4 1 節から見ると、その後で彼らは救い主を拒んだことを主によって責められています。4 1 節に「わたしは人からの栄誉は受けません。」と書かれています。

*** 主イエスは、人からの称賛を求めない。父なる神からのみ！**

イエスがこの地上を歩まれた時に、イエスは人から誉められようなどとは思っていなかったということです。私たちもよく考えなければいけません。人からの名誉を求めようとするのかそれとも神からか？イエスの歩みを見た時に、それは父なる神の前に忠実に生きること、人々からどう誤解されようと彼は主の前を正しく歩み続けました。彼の目は自分の前に起こっているいろいろな現象ではなくて、その先を、永遠を見ていました。私たちに対するすばらしい模範です。私たちもいろんなことを経験していても、私たちが見続けなければいけないのは、その先、主にお会いするその日です。その日を待ち望みながら今日を生きることです。

さて、イエスは四つの問題点を指摘されます。彼らは救われていないということをイエスはここで言われるのです。なぜ、そのようなことを断定されているのか、非常に面白いのですが、見てください。4 2 節に「ただ、わたしはあなたがたを知っています。」とあります。つまり、イエスは人々のうわべだけでなかったのです。心の中をご存じだったのです。実は、そのことはヨハネ 2 章に書かれています。2 : 2 3 から見てください。「:23 イエスが、過越の祭りの祝いの間、エルサレムにおられたとき、多くの人々が、イエスの行われたしるしを見て、御名を信じた。」と書かれています。2 4 節「しかし、イエスは、ご自身を彼らにお任せにならなかった。」、ここにある「お任せに」ということばと 2 3 節の「信じた」ということば同じことばが使われています。何を言わんとしたのか？多くの人たちはイエスが為さるみわざを見て「信じた」と言います。でも、イエスは彼らのことを信じなかったと言うのです。彼らの言っていることを信じなかった。「私はイエスを信じます」ということばを信じなかった。2 4 b－2 5 節「なぜなら、イエスはすべての人を知っておられたからであり、:25 また、イエスはご自身で、人のうちにあるものを知っておられたので、人についてだれの証言も必要とされなかったからである。」とあるように、人々の心をご覧になっていたからです。そのことがここで言われているのです。ですから、ヨハネ 5 : 4 2 のみことばもそうです。だれ一人としてこの神を騙すことはできません。この神はあなたの心の中にあるものをすべてご存じです。どんなに神を賛美していても神はあなたの心をご覧になっています。その神はあなたの信仰が本物かどうかを見ておられます。

この後、四つのことが書かれています。このようなことを指摘できるのは、確かに、神が私たち人間の心のすべてをご覧になっておられる、それゆえに為されるわざです。

1. 主を愛さない罪 4 2 節

4 2 節「ただ、わたしはあなたがたを知っています。あなたがたのうちには、神の愛がありません。」、イエスはこのユダヤ人たちのうちに、3 8 年間苦しみの中にいた人が安息日にいやされた。この安息日にそのようなことをしてはならないと非難する人たちに対して、イエスは「あなたがたのうちには神への愛がないと言われたのです。ですから、この人たちが為すすべてのことを神はお受けになっていません。なぜなら、彼らは神を愛していなかったからです。彼らが守っていたのは習慣、しきたりで、その中に生きていたからです。こういうことを先祖が言っていた、そのことを教えられて来たからと、それらを守っていたに過ぎないのです。安息日にそのような労働をすることは罪だと、悲しいことに、そのようなことを守っていながら、彼の心には神への愛がなかったのです。イエスはそれをご存じなのです。

2. 主を拒む罪 4 3 節

4 3 節「わたしはわたしの父の名によって来ましたが、あなたがたはわたしを受け入れません。」と。彼らの二つ目の罪は、主を拒む罪です。創造主なる神が我々罪人を救うためにこの世に人として来てくださった。それにも関わらず、被造物である私たち罪人はこの方を拒んだのです。信仰者の皆さん、私たちが覚えなければならないことは、イエス・キリストを拒んだ人々の中にあなたも私もいたということです。私たちが生まれながらにこのイエス・キリストを心から歓迎した訳ではありません。この方を心から迎え入れた訳ではありません。この方に背を向けて生きて来ました。

イエスが二つ目に指摘されたことは「わたしはあなたがたを造ったが、あなたがたが一方的に逆らって罪を犯し、そして、さばきを受ける運命に自ら陥った、それは自業自得です。しかし、わたしはあなたがたをあわれみ、あなたがたをそこから救うためにこの世に来たのに、あなたがたはわたしを受け入れない。」と、そのことが指摘されているのです。「この方はご自分のくにに来られたのに、ご自分の民は

受け入れなかった。」（ヨハネ 1 : 11）。

3. 偽りの主を信じる罪 43b 節

43 節の後半をご覧ください。「…ほかの人がその人自身の名において来れば、あなたがたはその人を受け入れるのです。」と、彼らの三つ目の大きな罪は「偽りの主を信じる罪」です。「自分が救世主、メシヤだ」と言って来る人たち、偽りの救世主を彼らは喜んで受け入れたのです。悲しいことです。真の救世主が来ておられるのに、人々は彼ではなくほかの者を信じたのです。確かに、使徒の働きなどを見ると、その人たちのことが記されています。

（1）チウダ : 使徒 5 : 36 「というのは、先ごろチウダが立ち上がって、自分を何か偉い者のように言い、彼に従った男の数が四百人ほどありましたが、結局、彼は殺され、従った者はみな散らされて、あとかたもなくなりました。」

（2）ガリラヤ人ユダ : 使徒 5 : 37 「その後、人口調査のとき、ガリラヤ人ユダが立ち上がり、民衆をそそのかして反乱を起こしましたが、自分は滅び、従った者たちもみな散らされてしまいました。」

（3）バル・コクバ Barkochba :

（4）不法の人 : 偽キリストとも書かれています。Ⅱテサロニケ 2 : 8 - 10 「:8 その時になると、不法の人が現れますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。:9 不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、:10 また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行われます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。」

ですから、みことばは多くの人々が「自分は救い主である、救世主である」と言ってこのように来る、そして、人々を惑わして滅びの道へと導いていくと言います。私たちの国でもそのような人たちはたくさんいます。「天国に入れてあげる、幸せをもたらす」とか、何と多くの人々がそれに騙されているかです。多くの人たちは救い主のことを聞いても、その救い主を受け入れようとしないで、そうではない偽りの、救いをもたらすことのできない偽りのメシヤを喜んで心から歓迎していると言うのです。

実際の歴史上でも、2 世紀にバル・コクバという人物がいました。彼がリードしてローマに対して反乱を起こしたことがあります。「バル・コクバの乱」と言われるものですが、実際にそのことが 2 世紀、紀元 132 - 135 年に起こったと言われています。そのような人物が出て来るのです。「自分が解放をもたらす、自分が救いをもたらす」と言って、人々を惑わすのです。イエスはここで「あなたがたはわたしを拒み、偽りの救世主を受け入れている」と言われたのです。

4. この世のことしか考えない罪 44 節

44 節「互いの栄誉は受けても、唯一の神からの栄誉を求めないあなたがたは、どうして信じることができますか。」、彼らの関心は地上のことだけです。彼らは人々からの称賛だけを求めているのです。そして、彼らは神からの栄誉は求めていないのです。彼らは死んだ後のことなど考えていない、今の地上のことしか考えていないのです。ピリピ 3 : 19 に「彼らの最後は滅びです。彼らの神は彼らの欲望であり、彼らの栄光は彼ら自身の恥なのです。彼らの思いは地上のことだけです。」とあります。死んでから後のことなど全然考えようとしない。まさに、これは偽善者たちの生き方です。なぜなら、イエスが山上の説教でそのことをお話になっているからです。マタイ 6 : 2 「だから、施しをするときには、人にほめられたくて会堂や通りで施しをする偽善者たちのように、自分の前でラッパを吹いてはいけません。まことに、あなたがたに告げます。彼らはすでに自分の報いを受け取っているのです。」と。この 6 章の中でイエスは繰り返して、人前で行なうことと隠れたところで行なうことを比較されています。偽善者たちは人前でラッパを吹いたのです。自分の良いところを見せようとしたのです。ですから、善行を行ない、施しを行ない、祈りを行ない、断食を行なっていたのです。

イエスが言われたことは、もし、人から称賛を求めるために、人前で自分がいかにも霊的であると振る舞っているなら、もう、あなたがたは自分たちの報いを頂いたのだということです。それは人々からの称賛です。「あの人はずごい！！」と。イエスは「あなたがたはそれしかもらえません。」と言われるのです。神の前に立った時にそのような行ないには神は何一つ報いを与えません。つまり、それは虚しい生き方だからです。人から誉められることを求めて生きる生き方は虚しいと言うのです。大切なことは、神が誉めてくださるかかどうかです。神が喜んでくださるかかどうかです。ですから、隠れたところで行なうのなら、6 : 4 「あなたの施しが隠れているためです。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。」と。

この人たちの問題は、地上のことばかりを考え、人の目ばかりを気にしていたことです。もっと気にしなければならないことがあったのです。あなたの心を見ておられる神をしっかりと覚えることでした。私たちの責任は、人にどのような感銘を与えるかではない、あなたの心を見ておられるあなたの神である方を喜ばせることです。神が喜んでおられることを私たちが選択することです。彼らはそんなことを

考えていませんでした。彼らは自分たちの思い、考えに基づいて、人々からの称賛だけを求めて生きていたのです。主はそのことをご存じだったので彼らのことを厳しく責めておられます。

今、私たちが見て来たこと、それは、この人たちのうちには神への愛がない、この人たちのうちにはイエスを受け入れている信仰がない、この人たちは神でないものを信じている、この人たちはこの世のことしか考えていない、まさに、それらは救われていない人々の特徴です。そこでイエスは彼らを厳しく責められるのです。聖書を一生懸命勉強しているかもしれない。でも、あなたがたは真理を学んでいない。一生懸命いろんな行ないをしているかもしれない。でも、あなたがたの心が間違っている。虚しい人生を過ごしているこの宗教家たちに対して、この国民に対して、イエスはこのような厳しいおことばをお語りになったのです。

C. モーセの拒絶 45-47節

そして最後に、面白いことは「モーセの話」になるのです。なぜ、ここにモーセのことが出て来るのか？と思いますが、みことばを見るとその答えは明確です。

1. モーセによるさばき 45節

というのは、ヨハネ9章に書かれている盲人のいやしのことですが、ユダヤ人たちはこのように言います。「…「おまえもあの者の弟子だ。しかし私たちはモーセの弟子だ。」（ヨハネ9：28）と。つまり、彼らはモーセを非常に尊敬していたのです。そこでイエスは「あなたたちはモーセの弟子だというが、実は、モーセを拒んでいる。」と言われたのです。5：45に「わたしが、父の前にあなたがたを訴えようとしていっているとは思ってはなりません。あなたがたを訴える者は、あなたがたが望みをおいているモーセです。」とあり、イエスは「わたしではない。モーセがあなたがたを責めるのだ。」と言われました。ユダヤ人たちはこれを聞いて、いったい、私たちはモーセに対してどんな罪を犯したのでしょうか？と思ったでしょう。そこでイエスは説明を加えていきます。

2. モーセによるさばきの理由 46節

46節「もしあなたがたがモーセを信じているのなら、わたしを信じたはずです。モーセが書いたのはわたしのことだからです。」、なぜ、モーセがあなたがたを責めるのか？その理由を言っています。「モーセが書いたのはわたしのことだから」と。ですから、創世記3章15節をご覧ください。「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み碎き、おまえは、彼のかかとかみつく。」と、神はこのように創世記の初めのところから救い主の預言をしておられたのです。モーセはそのことを記しています。民数記24：17には「私は見る。しかし今ではない。私は見つめる。しかし間近ではない。ヤコブから一つの星が上り、イスラエルから一本の杖が起こり、モアブのこめかみと、すべての騒ぎ立つ者の脳天を打ち砕く。」、申命記18：15-18にも「15 あなたの神、【主】は、あなたのうちから、あなたの同胞の中から、私のようなひとりの預言者をあなたのために起こされる。彼に聞き従わなければならない。16 これはあなたが、ホレブであの集まりの日に、あなたの神、【主】に求めたそのことによるものである。あなたは、「私の神、【主】の声を二度と聞きたくありません。またこの大きな火をもう見たくありません。私は死にたくありません」と言った。17 それで【主】は私に言われた。「彼らの言ったことはもっともだ。18 わたしは彼らの同胞のうちから、彼らのためにあなたのようなひとりの預言者を起こそう。わたしは彼の口にわたしのことばを授けよう。彼は、わたしが命じることをみな、彼らに告げる。」と、このようにひとりの預言者が起こされると記しています。モーセはまだ見ぬこの救い主、メシヤのことを記していたのです。

そこでイエスは言われます。「モーセが書いたのはわたしのことだ。そして、あなたがたがわたしを信じないということは、モーセが書いたことを否定しているのだ。モーセが書いたことをあなたがたは信じない。だから、そのモーセがあなたたちを責めるのだ。」と。

3. 主による責め 47節

最後に47節を見てください。「しかし、あなたがたがモーセの書を信じないのであれば、どうしてわたしのことばを信じるでしょう。」と、主が責めておられます。「あなたがたは自分のしていることが分かるか？あなたがたはモーセの弟子だと言いながら、そのモーセが語ったことを信じていない。そのあなたがたがどうしてわたしの言っていることを信じることがあり得ようか？」と。

* モーセは主について語った

モーセは神からの律法を記した人物です。律法は人間に対して、どんなに努力をしようとどんなに頑張ろうと、自分の力で神の基準に達することは絶対にあり得ないということを私たち人間に教えてくれました。モーセの律法が与えられることによって、それを受けた人たちは「私はどんなに努力をしてもこの律法を守ることはできない。だから、私が救われるためには神のあわれみが必要だ。」と気付きます。そのことを悟らせるためにこの律法が与えられたのです。

ですから皆さん、モーセが記したことはすべて、人間に「私には神の助けが必要です。神が私をあわれんでくださらなければ、私はどんなに努力をしてもどんなに心を入れ替えて頑張ろうとしても、神の

要求されている基準には達しません。私には神のあわれみが要ります。」と、そのことに気付かせ、そして、その人たちの目を救い主に向けさせようとするのです。イエスは言われます。「モーセが記した救い主はもうここに来た。あなたがたはモーセの教えを信じないだけでない。わたしが言っていることも信じない。それは当然だ。あなたたちは真理を信じようとしていないから。」と。

このようにして、38年間病いに苦しんでいた人の病いがいやされた、それを喜ぶどころか、そのわざを行なったイエスを責めた人々、イエスは彼らのその罪を明らかに示されました。彼らの問題点がどこにあるのかを明らかに示されたのです。

結論 今日、見て来たことのまとめです。イエスはこうしてご自分の生き方をもって、また、メッセージをもって、また、奇蹟をもってご自分がだれであるかを明らかにされました。イエス・キリストご自身が神であること、救い主であることを明らかにされました。その恵みによって救われた弟子たちも同じことをするのです。彼らもこのイエス・キリストが救い主であるということを伝えました。そして、その務めをあなたや私にも与えられました。

だから、私たちの務めはこの方のことを人々の前で明らかにするのです。皆さん、確かに、私たちはこの働きを、神の真理を正しく伝えることによって為します。私たちは人々に対して「神がこうっておられる。これが神が命じておられることだ。」と、確かに、ことばをもって語ります。でも同時に、主イエス・キリストが救い主であるということは、あなた自身が自分の体験をもって確信していることです。私たちは何度も見て来たように、救いとは、ただ天国への切符をもらっただけではありません。私たち自身の生き方が変わるのです。それがみことばが教えてくれた神が与えてくださる救いだと見て来ました。だから、私たちはことばだけでない、生まれ変わった新しくされたその生き方をもって、この主こそが確かに救い主であり、私たちを生まれ変わらせてくださる神だということを伝えるのです。それが私たちに与えられた大きな責任です。

生まれ変わった者たちが、生まれ変わらせてくださる神がおられるのだということを、その方はこのイエスだということを伝えるのです。確かに、みことばを見ると、多くの忠実なメッセンジャーがいました。主ご自身もそうでした。どれだけの人が主のメッセージを聞いて救いに至ったでしょう。どれだけの人が主の弟子たちを通して救いに至ったでしょう。あなたも一生懸命福音宣教をしているけれどもなかなか結果が出て来ない。周りを見渡すとまだこの救いを受け入れていない人が溢れています。家族の中にもいます。祈っても祈っても、祈りが聞かれないように思ったり、福音を語っても語っても人々の心が開かれないと思ったり…、諦めていませんか、皆さん？

主は私たちに「人を救いなさい」とは命じておられません。私たちは救われたことを人々に伝える者たちです。私の生き方が変わったことを伝える者たちです。私たちの生き方を、私たちのいのちを生まれ変わらせてくださる、新しくしてくださる、そういう救い主、神がおられることを伝えるのが私たちの務めなのです。もし、あなたが人を救おうと努力されているなら、必ず、落ち込みます。願っている結果が出て来ないからです。

もう一度思い出しましょう！神が私たちに何を望んでいるのか？何を命じておられるのか？出ていってこの神のすばらしい救いを、ことばをもって、そして、私たちの生き方をもって示すのです。私は生まれ変わったということを、私たちの生き方をもって示していくのです。その働きのために神はあなたを救って、その働きのために神はこの日をあなたにくださったのです。希望を失わないことです、皆さん！私たちの務めが何かをしっかりと覚えることです。そして、この務めのために神はあなたや私を用いてくれるのです。出て行って、しっかりとこの救いを伝えることです。この偉大な救い主を伝えることです。本当にイエスによって生まれ変わるということを、私たちの身をもって明らかにしていくのです。まだ、この働きは終わっていません。主にお会いするその日まで、しっかりとこの働きを続けていくことです。それが神が望んでおられることであり、それが私たちの感謝を表わす一番すばらしい方法です。どうぞ、しっかりと感謝をもって主の証を続けてください。

《考えましょう》

1. 主イエスが神であることを証している証人を四つ上げてください。
2. どうして人は救い主を信じないのでしょうか？
3. どうして人からの栄誉を求めることが間違っているのでしょうか？
4. 神への愛を持っている人はどのような人かを記してください。